短歌

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「くれなゐの」（二六八・2）の歌について、次の中から**あてはまらないものを一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 「やはらかに」は意味の上で、「針」と「ふる」の二語を修飾している。
イ この歌の感動の中心は下の句の「針やはらかに春雨のふる」にある。
ウ 「の」の多用で勢いよく伸びる芽の強靭な生命力を表している。
エ 情緒的な表現を避けて目に見えたものを忠実に描写している。

2 「いちはつの」（二六八・3）の歌について、「今年ばかりの春」の「ばかり」と同じ用法で使用されているものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 仕事をおえたばかりだ　イ 三日ばかり前の出来事
ウ あとは寝るばかりだ　エ 飛び出さんばかりの様子

3 「清水へ」（二六八・5）の歌について、「うつくしき」にはどのような効果があるか、次の文章にあてはまる語句を後ろの語群からそれぞれ選んで記号で答え、説明文を完成させなさい。

A［　　］止めで句が終わることで、B［　　］が残るという効果がある。

ア 連体　イ 体言　ウ 余韻　エ 疑念

4 「やは肌の」（二六八・6）の歌について、作者の気持ちとして**あてはまらないものを一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 道徳に縛られる者に同情する気持ち
イ 幼い者を愛おしむ気持ち
ウ 恋愛に躊躇する者を挑発する気持ち
エ 情熱的な生き方を望む気持ち

5 「白鳥は」（二六九・2）の歌について、次の各問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の空欄Aに適当な語句を書き入れ、a・bにあてはまる語句を本文からそれぞれ抜き出して表を完成させなさい。

句切れ	対句表現の箇所
A	a［　　］と b［　　］

(2) 「白鳥は哀しからずや」の部分を現代語訳しなさい。

(3) 「ただよふ」という語について述べた次の文の空欄に適当な語句をそれぞれ書き入れて説明文を完成させなさい。

「ただよふ」とは空中や水面に浮かんでA［　　］ことである。このあり方は風や波に身をまかせるB［　　］的な状態にあると言える。このような中でも空や海の色にまぎれない白鳥のあり方が作者自身の境涯と重なるものとして、「染

まずただよふ」と詠まれている。

6 「幾山河」（二六九・3）の歌について、この歌の雰囲気を端的に示す語として**あてはまらないもの**を、次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 悲哀　イ 歓喜　ウ 諦念　エ 寂寥

□

7 「いのちなき」（二六九・5〜7）の歌について、次の各問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「砂」はどのようなイメージを持っているか。次の中から**あてはまらないもの**を**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア はかなさ　イ たよりなさ
ウ もの足りなさ　エ むなしさ

□

(2) 「かなしさよ」とひらがなで表記されているのはなぜか。次の中から**あてはまらないもの**を**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア ひらがな表記の「いのち」と関連づけるため。
イ 「悲しさ」の意味に限定しないため。
ウ ひらがなによって、子供らしい気持ちを表現するため。
エ 「いのちなき」の虚無感を強調するため。

□

8 「ふるさとの」（二六九・8〜10）の歌の解釈として適当なものを、次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 東京の停車場で、ふるさとの訛りを聞き、懐かしく思う気持ち
イ 東京の停車場で、人ごみの中にいて孤独を感じる気持ち
ウ ふるさとの停車場で、久しぶりに訛りを聞き、安堵する気持ち
エ ふるさとの停車場で、東京の停車場の人ごみを懐かしく思う気持ち

□

9 「のど赤き」（二七〇・2）の歌について、次の各問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「足乳根の」は母に掛かる枕詞であるが、それにとどまらない思いがこの語には込められている。その思いは何か。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 母と親密な関係であった幼少期への追憶。
イ 乳を与え育ててくれた母の愛への感謝。
ウ 無償の愛に報いることができなかった後悔。
エ いつの間にか年老いてしまった母への悲哀。

□

(2) 「母は死にたまふなり」の部分を「なり」の意味に留意して現代語訳しなさい。

□

10 「最上川」（二七〇・3）の歌について、「ふぶくゆふべとなりにけるかも」を現代語訳しなさい。

□

11 「野に捨てた」（二七〇・5）の歌について述べた次の文の空欄にあてはまる語句を後ろの語群からそれぞれ選んで記号で答え、説明文を完成させなさい。

暗く［A］季節から、明るく［B］季節へと移り変わることを詠んだもので、植物の［C］を鮮やかに描き出すとともに、新しい季節になったことに対する作者の［D］が表現されている。

ア　華やかな　イ　悲劇　ウ　閉ざされた
エ　喜び　オ　生命力

12　「水滴より」（二七〇・6）の歌について、この歌の中心となっている感覚は何か。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　視覚　イ　触覚　ウ　聴覚　エ　嗅覚

［　　］

13　「ふるさとの」（二七一・2）の歌について、「かくまでにがし」と感じた理由として読み取れるものを、次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　東京弁を使うふるさとの友人に対して、疎外感を覚えたため
イ　友人に合わせてモカ珈琲を注文したが、自分は珈琲が苦手であるため
ウ　かつてふるさとで飲んだ珈琲は、甘いものであったため
エ　訛りを使わずに友人と話せたことで、自分の成長が実感できたため

［　　］

14　「マッチ擦る」（二七一・3）の歌について、次の各問いにそれぞれ答えなさい。

(1)　この歌に陰影をもたらしている語句は何か。また何句切れか。

●語［　　］　●句切れ［　　］

(2)　この歌について述べた次の文の空欄A～Dにあてはまる語句を本文からそれぞれ抜き出し、a・bに適当な語句をそれぞれ書き入れて説明文を完成させなさい。

「［A　　］」は、［a　　］に火をつけるため、マッチで火をつけたほんの少しの間、ということ。そのマッチの［b　　］で浮かび上がったのは、海に立ちこめる深い霧である。

下の句では「［B　　］」という、国家とは何か、人間とは何かという根源的な問いかけを行っているが、上の句の「［C　　］」は、その問いが深いもやに包まれ、答えを見いだせないままの存在であることを暗示している。

また、霧で視界がきかない海は、身を捨てるほどの「［D　　］」を見いだせない、当時の若者の不安や虚無感を象徴しているともいえる。

15 「太陽が」（二七一・5）の歌について、次の各問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「父を怒らせし日より」の「し」の品詞と活用形を答え、現代語訳しなさい。

●品詞 ［　　］　●活用形 ［　　］

●現代語訳

(2) この歌の意味上の切れ目はどの語の後にあるか。また、音数の上で下の句になるのはどの語からか。本文からそれぞれ単語で抜き出しなさい。

●意味上の切れ目 ［　　］

●音数の上での下の句 ［　　］

(3) 「むなしきもの」とは、どのような意味か。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。 ［　　］

ア　とるにたりないもの。　イ　手には入らないもの。
ウ　すぐに消え去るもの。　エ　身を滅ぼすようなもの。

16 「母に」（二七一・6）の歌について、「不滅の列」とは、どのような意味か。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。 ［　　］

ア　未来に続く家族の系譜。
イ　母系で継承される遺伝子。
ウ　女性特有の遺伝子の並び方。
エ　男女で形成される家族像。

17 「この味が」（二七一・8）の歌の解釈として適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。 ［　　］

ア　「君」との会話の中でたわむれに記念日を制定する遊び心
イ　「君」の言葉に心をときめかせ喜びを満喫する恋心
ウ　「君」の言葉で自分の料理に自信が持てるようになったことによる自負心
エ　記念日を作ることで、「君」に野菜を食べさせようとする親心

18 「「寒いね」と」（二七一・9）の歌について述べた次の文の空欄にあてはまる語句を後ろの語群からそれぞれ選んで記号で答え、説明文を完成させなさい。

歌の大意としては、自分が「寒いね」と言ったことに対して、［A］して「寒いね」と答えてくれる人がいることで、心の［B］を感じている、というものである。
そしてこの歌の特徴としては、［C］を使用していて、［D］で、［E］な［F］を使用している点があげられる。

ア　文語体　イ　カギカッコ　ウ　会話体　エ　共感
オ　むなしさ　カ　反対　キ　難解　ク　日常的
ケ　平易　コ　非日常的　サ　温かさ